

教育長就任あいさつ

このたび、教育長に就任いたしました細川恵です。

私は、昭和59年4月に相模原市立中学校保健体育科の教員として採用され、以来、5つの中学校と1つの小学校に勤務してまいりました。また、相模川自然の村野外体験教室指導主事、学校教育課長、学校教育部長として教育行政に携わってまいりました。



新採用職員の頃は、全国的に校内暴力が大きな課題となっていました。やり場のない思いを多様な方法で表出するその行動は、ややもすると問題行動とされることがありましたが、生徒たちの行動には意味があり、生徒たちは生きるために安心できる学びの場と仲間を求め続け、教員は、生徒たちがより良い自己実現を果たすための手立てを見つけられるよう対話を重ねながら支え続けていました。

現在、小中学校等においては、不登校児童生徒の加速度的な増加が課題となっています。様々な要因から生きづらさを感じ、不登校を選択している児童生徒たちの行動には意味があり、児童生徒たちは生きるために安心できる学びの場と理解者を求め続け、教員は、児童生徒たちがより良い自己実現を果たすためのエネルギーを生み出せるよう創意工夫しながら支え続けています。

時代が移り変わり、人々の暮らし方や世の中の価値観が複雑化、多様化する中で、教育課題や教育の在り方、学校運営に求められることは少しずつ変容してきました。一方で、学校教育は、未来社会の形成者である全ての児童生徒が、教育活動全体を通し生きるために必要な資質能力を主体的に習得して行く場であることは、これまでも、これからも変わることはありません。

こうした中、教育行政に求められることは、教育の不易と流行を見定めながら、教育環境の充実、教員の専門性の向上、先進性のある教育技術の推進、人材確保につながる実効性のある働き方改革等、必要な教育施策に迅速に確実に取り組むことと考えています。

同時に、社会にある様々なリソースに目を向け、多様な方々と連携し、児童生徒の育ちと学びを支える仕組みについて検討することも重要であると考えています。

あわせて、変化の著しい時代においては、正にその時代を生き抜きながら歳を重ねる大人たちにも、生涯にわたりより良く生きるために新たな知識やスキルの習得、温かさのあるコミュニティが求められます。そのため、地域活動の拠点であり、交流の場である公民館を軸とした、社会教育の充実に取り組むことも、魅力ある地域社会の形成と児童生徒の育ちの下支えにつながるものと考えています。

今後は、これまで以上に、教育者としての知見と誇り、教育行政に携わる者としての自覚と責任、謙虚に学び続ける姿勢を心に刻み、最前線で児童生徒に向き合いその成長を支えている全ての教職員、創意工夫しながら教育課程を編成し学校運営に尽力する全ての校長、各学校の教育活動に御理解と御協力をいただいている保護者の皆様と地域の方々、児童生徒を取り巻く方々と共に、全ての児童生徒が自分の居場所で学び、自他を思いやり、自分らしく自己実現を図る学校教育、すなわち、本市が目指す誰一人取り残さない教育の実現に尽力する所存です。

皆様の御理解と御支援をどうぞよろしくお願いいたします。

令和7年10月

教育長 細川 恵